

# 教育研究業績書

2023年10月23日

所属： 景観建築学科

資格： 教授

氏名： 曾和 治好

研究分野	研究内容のキーワード
景観建築設計学・ランドスケープデザイン・造園学・サウンドスケープ研究	ランドスケープ・アーキテクチャー、ランドスケープ・デザイン、公園や庭園の設計、都市や庭園のサウンドスケープ、地域づくりと活性化など
学位	最終学歴
博士(農学)	京都大学大学院農学研究科・修士課程(造園学研究室)修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 都市景観大賞 まちづくり活動・教育部門 優秀賞	2018年5月21日	国土交通省
2. 京都デザイン賞 京都新聞賞	2014年11月9日	公益社団法人 京都デザイン協会
3. 「文化で滋賀を元気に！賞」大賞(びわこアート文化賞)	2014年1月16日	文化・経済フォーラム滋賀
4. 京都デザイン賞 京都府知事賞	2013年11月4日	公益社団法人 京都デザイン協会
5. 平成24年度日本造園学会 関西支部賞	2012年10月28日	日本造園学会 関西支部
6. 屋外LED照明デザインコンテスト庭のあかり大賞・審査員特別賞	2011年6月27日	エコツェリア協会
7. 京都デザイン賞 京都市長賞	2010年10月30日	公益社団法人 京都デザイン協会
8. 遷都1300年祭「平城宮光の作品展」準グランプリ	2010年8月20日	(社)平城遷都1300年記念事業協会
9. 職業訓練功労・京都市長表彰	2009年11月14日	京都市
10. 史跡万徳院整備工事整備事業設計業務に対する感謝状	2009年9月30日	千代田町
11. 職業訓練功労・京都府職業能力開発協会会長表彰	2008年11月8日	京都府職業能力開発協会

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 京都市・歴史的景観アドバイザー	2018年8月1日～継続中	眺望景観創生条例に基づく眺望景観の種類のうち、【境内の眺め】及び【境内地周辺の眺め】を定める近景デザイン保全区域及び視点場について、自然、歴史的遺産、町並み、伝統、文化等との調和を踏まえ、地域ごとの特性に応じた眺望景観の創生を図るため、「事前協議(景観デザインレビュー)制度」を導入。事前相談の際の専門家として歴史的景観アドバイザーが参加する。
2. NPO法人地球デザインスクール・副理事長	2018年4月1日～継続中	京都府立・丹後海と星の見える丘公園の指定管理者を務めるNPO法人。エコロジカルな環境で事案に取り組む。理事として、ランドスケープデザイン・公園計画・運営・管理を担当。理事長：水野哲雄
3. 京都市・美観風致相談員	2017年4月1日～継続中	京都市市街地の美観及び都市の風致の維持、伝統的建造物群の保存その他都市景観の維持及び向上に関する事項について、京都市職員的美観風致に関する専門的な業務指導を行う。京都市役所に毎月2回の非常勤相談員。
4. 宇治市・環境保全審議会委員	2016年4月1日2018年3月31日	宇治市の環境保全政策に関する委員会委員。宇治市環境保全基本条例に基づき、良好な環境の保全および確保に関する事項を審議する。さらに実施機関からの諮問に応じ、調査研究および審議を行う。

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>				
5. 京都市・美観風致審議会委員	2014年4月1日～継続中	京都市市街地の美観及び都市の風致の維持、伝統的建造物群の保存その他都市景観の維持及び向上に関する事項について、市長又は教育委員会の諮問に応じ、調査し、及び審議するために設置されている市長の附属機関。景観専門小委員会所属。京都市都市計画局都市景観部景観政策課が担当。		
6. NPO法人エナジーフィールド・理事	2012年4月1日2015年3月31日	BIWAKOビエンナーレを主宰するNPO法人。アートを通じて近江八幡の町屋とランドスケープの再生に取り組む。理事長：大野木啓人		
<b>4 その他</b>				
1. 三TANコネクト研究会	2016年2月16日	兵庫県立コウノトリの里公園において、三TAN連携事業に関する研究会を開催した。		
2. 宮津・竹の学校、手ぼうきワークショップinこんぶくろ池公園	2015年11月21日	千葉県柏市・こんぶくろ池公園において、NPO法人こんぶくろ池自然の森に招聘され、手ぼうきワークショップを実施した。		
3. 宮津・竹の学校と手ぼうき	2015年11月14日	芸術学舎において、宮津・竹の学校の諸活動に関するレクチャーを実施。		
4. 近畿・水の塾・第154回河川塾レクチャー「宮津・竹の学校と手ぼうき」	2015年10月28日	近畿・水の塾の研究会・河川塾において、宮津竹の学校の諸活動をレクチャー		
5. 「丹後・丹波・但馬の自然系ミュージアム連携による環づくり」三TAN連携研究会トークライブinアースガーデンみやづ2015	2015年10月25日	兵庫県立人と自然の博物館館長中瀬勲氏らと、三TAN連携の意義をテーマとしたシンポジウムにおいてパネラーとして講演。		
6. 宮津・竹の学校、手ぼうきワークショップinアースガーデンみやづ2015	2015年10月24日2015年10月25日	宮津・竹の学校デザイン・製品開発事業における手ぼうきワークショップ。丹後海と星の見える丘公園で実施されたアースガーデンというイベントにて実施。		
7. 未来へのパースペクティブ・シンポジウムでの講演	2015年9月22日	地域におけるランドスケープやアートを通じた街づくりや地域再生に関する講演を行った。その後のシンポジウムパネラーは加須屋明子（京都市立芸術大学教授）、中嶋節子（京都大学教授）、曾和治好（造園家・京都造形芸術大学教授）、中田洋子（BIWAKOビエンナーレディレクター）など		
8. ミラノの魅力と創造力・iBart2015について	2015年9月19日	在大阪イタリア総領事マルコ・ロンバルディ参事官、ミラノ市立自然史博物館ジューリオ・カレガリ教授、玉井恵理子らとともに、曾和治好はiBart2015のアート創造活動について講演した。		
9. Art and creativity in Japanese garden - Soundscape and Desktop garden -	2015年4月17日	ミラノ私立自然史博物館での講演。デスクトップガーデンとサウンドスケープに関する英語での講演。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. ベーシックスタディ・ランドスケープデザイン 韓国語翻訳版	共	2009年8月	(株) 昭和堂	ランドスケープデザインの設計・計画技法書。韓国語版が出版された。内容は下欄参照のこと。著者：佐々木葉二・曾和治好・村上修一・久保田正一 翻訳：昭和堂
2. ベーシックスタディ『ランドスケープデザイン』	共	1998年5月	(株) 昭和堂	ランドスケープデザインの設計・計画技法書。設計やデザインに関する基本的考え方、空間把握手法、空間操作手法、計画・デザインの実践手法、プレゼンテーション事例などについて解説。本書の内容企画、執筆者の選定、章立てや調整・編集、また第2章「空間把握のベーシックスタディ」(p58～p87)および第5章総合プレゼンテーションの一部・作品事例(p178～p187)の執筆を担当。共著者：1章/佐々木葉二・2章/曾和治好・3章/村上修一・4章/久保田正一・5章/佐々木・曾和・村上・久保田
<b>2 学位論文</b>				
1. 庭園の音環境に関する研究	単	2001年5月27日	京都大学大学院農学研究科	サウンドスケープ及び音楽理論に対する基本的な考察を基盤に、サウンドスケープの視点から、騒音工学の手法を用いて庭園の音環境について実地調査を実施した。対象庭園は桂離宮庭園・詩仙堂庭園・対龍山荘庭園の3庭園である。現在まで殆ど取り扱われていなかった庭園の音環境の状況について、騒音計を用いた調査研究方法

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2 学位論文</b>				
				論に基づき、それぞれの庭園の空間特性に応じた騒音レベル分布状況や、庭師が音を扱う感性を持っていた可能性について論じた。
<b>3 学術論文</b>				
1. 無鄰菴庭園のサウンドスケープ(査読付)	共	2015年5月10日	Chinese Landscape Architecture Vol. 31, P54-57, 2015, 中国風景園林学会	庭園の音風景に関する研究が日本と中国において実施されてきた。中国風景園林学会より要請があり、中国風景園林学会誌、サウンドスケープ特集章に掲載された。日本の庭園サウンドスケープ研究の特質と、山縣有朋と庭師・小川治平衛によって作庭された無鄰菴庭園のサウンドスケープについて論じた。曾和は論文全体の執筆を担当。土田は騒音レベル調査のデータを提供。執筆者：曾和治好、土田義郎
2. コネクト三TAN事業による環づくり	共	2015年3月23日	宮津・竹の教科書 2014, pp34-37, 2015, NPO法人地球デザインスクール・宮津・竹の学校実行委員会	コネクト三TAN事業においては、丹後海と星の見える丘公園が幹事園となり、琴引浜鳴き砂文化館、豊岡市立コウノトリ文化館および兵庫県立コウノトリの郷公園、新温泉町山陰海岸ジオパーク、(公財)丹波の森協会と連携し、行政の区分けを越えて、情報共有と活性化を図る。本論においては、この取り組みの概要と意義について論考した。曾和は事業進行の統括と執筆指導を担当した。代表執筆者：上岡典子、共同執筆者：久保善康、水野哲雄、曾和治好
3. 手ぼうき文化の再発見と創造	共	2015年3月23日	宮津・竹の教科書 2014, pp40-43, 2015, NPO法人地球デザインスクール・宮津・竹の学校実行委員会	一般的に手ぼうきは、モウソウチクの小枝を乾燥させて束ねられた長さ40cmの小さな掃除道具である。京都の庭園が美しく維持管理されてきた背景には、このような小さな掃除用具にまで配慮した、繊細な庭園管理技術の継承がある。手ぼうきの重要性と継承・創造活動に関する論説を試みた。諸活動と執筆について、大部分を曾和が担当。代表執筆者：曾和治好、共同執筆者：平井幸輝、川崎泰大、田畑了、藤井美有希
4. iBart2013 (宮津・竹の学校・国際ワークショップ)	単	2014年3月30日	宮津・竹の教科書 2013, pp8-9, 2014, NPO法人地球デザインスクール・宮津・竹の学校実行委員会	iBart(International workshop on Bamboo ART)2013では、ミラノおよびセネガルからアーティストを招き、放置竹林の竹を利用したインスタレーション2作品の創作に取り組んだ。本論では、iBartの考え方、目標、実施内容などについて報告した。
5. 穂垣を応用した景観型シシ垣	共	2014年3月30日	宮津・竹の教科書 2013, pp20-21, 2014, NPO法人地球デザインスクール・宮津・竹の学校実行委員会	都市近郊林において獣害問題が深刻化しており、各地でイノシシやシカの害を防ぐための獣柵が設置されている。本論では、景観に配慮したシシ垣の開発プロセスを記述。曾和は技術指導と執筆の指導を担当。代表執筆者：清水睦、共同執筆者：野木俊宏、藤井美有希、徳本英明、市瀬拓哉、塩見篤史、曾和治好
6. 竹とランドスケープ・エデュケーション	共	2014年3月30日	宮津・竹の教科書 2013, pp32-33, 2014, NPO法人地球デザインスクール・宮津・竹の学校実行委員会	主に学童を対象とした、都市空間の景観・風景の学びをランドスケープ・エデュケーションと位置づけた。本論では、竹を使用したランドスケープ・エデュケーションの事例を報告するとともに、その意義について論考した。曾和は活動の総括と執筆の指導を担当した。代表執筆者：藤津紫、共同執筆者：曾和治好
7. ししおどしと竹のサウンドスケープ	共	2014年3月30日	宮津・竹の教科書 2013, pp36-37, 2014, NPO法人地球デザインスクール・宮津・竹の学校実行委員会	庭園のサウンドスケープについて概説するとともにランドスケープにおける音のデザインについて取り扱いに言及し、さらに日本の代表的な庭園の音具である「ししおどし」を通じて、音環境を楽しむ庭園文化について論考した。
8. デスクトップ・ガーデン 歩みと展望	共	2014年3月30日	宮津・竹の教科書 2013, pp42-43, 2014, NPO法人地球デザインスクール・宮津・竹の学校実行委員会	デスクトップ・ガーデンは2008年に曾和が考案した机の上に創る小さな庭を指す。2009年のミラノサローネでの発表と、その後の創造活動を概説するとともに、今後の可能性について論じた。曾和はデスクトップガーデンの考案者であり、執筆も曾和が担当。代表執筆者：曾和治好、共同執筆者：田畑了、飯田章乃
9. 庭園のサウンドスケープ調査に関する考察	共	2013年8月30日	庭園学講座XX「日本庭園のモダンとポストモダン」論文集 pp17-26, 2013, 京造形芸	庭園のサウンドスケープの調査に関する論考。庭園の周辺環境などの立地、特に周辺道路から生じる騒音侵入などを騒音計を用いて計測し、さらに庭園内の騒音レベル分布をコンターマップに変換し、物理的空間構成と比較することにより可視化される庭園のサウンドスケープ調査手法などについて説明したもの。庭園サウンドス

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
10. Study on the Soundscape of Three Japanese Gardens(査読付)	単	2012年7月14日	術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター Full Paper of "2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Road", p263~p268, 2012, IASU	ケープ調査の方法論確立、本論の執筆は全て曾和が担当。代表執筆者：曾和治好、共同執筆者：土田義郎・栗山伴芳 The study of soundscape of the JapaneseThe results of the invastigation clafified that gardens have not developed. This study aims to clalyfy the structures of the sonic environment and soundscape of three Japanese gardens.The results of the investigation clafified that histrical garden designers must have had technnical skills to design the soundscape of the gardens, with making the best use of water and site construction.
11. ブログからみる日本庭園の評価(査読付)	共	2010年5月23日	ランドスケープ研究 73(5), 377-380, 2010 日本造園学会	日本庭園の来園者が庭園をどのように評価しているかについては明らかでない。本論では、テキストマイニング手法を用いて、インターネット上のブログに記載された庭園に関する記述を分析した。その結果、自然・デザインという単語を核に、風景・建築・歴史などの単語によって評価される傾向が明らかとなった。曾和は卒業論文の指導者として執筆を指導した。代表執筆者：伊藤いずみ 共同執筆者：曾和治好
12. 詩仙堂庭園の環境音(査読付)	単	2001年5月27日	ランドスケープ研究Vol.64 No.5 p769~772, 2011, 日本造園学会	日本庭園の代表的な音具「ししおどし」は、江戸時代に石川丈山の手により、詩仙堂庭園に設置されたものが起源とされる。本論では、詩仙堂庭園について、地形や環境騒音レベルの分布調査を行い、谷筋の立地がサンクンガーデン状の小空間を形成し、小川・小滝で形成される繊細な音空間の中に「ししおどし」の間歌音が配されることにより、より繊細な音を楽しむことが出来る本庭園の音環境の特質について明らかにすることが出来た。
13. 對龍山荘の水音と環境音(査読付)	単	1999年5月25日	『ランドスケープ研究』Vol.62 No.5 p661~664, 1999, 日本造園学会	對龍山荘庭園は明治時代の庭師・小川治兵衛によって作庭された豊かな水景を持つ自然風形式庭園とされる。本論では、環境騒音レベルの近隣交差点と園内の騒音レベルの相関が低いことより、本庭園の騒音侵入リスクの低さを示すとともに、庭園内の流れや水落ちが発する音により、本庭園のサウンドスケープの骨格が形成されていることを明らかにし、さらに北池における瀧の水音の補強という庭師の技術の存在について指摘した。
14. 桂離宮庭園の音環境	共	1995年6月1日	京都芸術短期大学紀要「瓜生」 17, p51-58, 1995, 京都芸術短期大学	桂離宮庭園は江戸時代の回遊式庭園である。本論は、桂離宮庭園内外部の音環境特性についての調査を通して、外部騒音が侵入しやすい庭園音環境の特質を明らかにするとともに、静かなエリアの存在、鼓の瀧の音の地形に沿った伝播などについて、本庭園の音環境の特質を明らかにした。調査・執筆等はすべて曾和が担当。代表執筆者：曾和治好 共同執筆者：森本幸裕・尼崎博正・小原博光
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1.Participatory approach of art, design and academia for sustainable bamboo utilization ? Introduction of the 'International school of Bamboo Art in Miyazu' (Japan)	共	2015年10月19日~21日	10th World Bamboo Congress Korea	韓国で開催された第10回竹の国際会議にて、宮津・竹の学校の諸活動に関する報告としてポスター展示を行った。曾和は発表内容の提供およびポスター内容の指導を担当した。代表発表者：IIDA Yoshihiko, 共同発表者：SOWA Haruyoshi, HIGASHIGUCHI Ryo, SHIBATA Shozo
2.Rediscovery and Innovation of Hand Brooms by Japanese Art and	共	2015年10月19日~21日	10th World Bamboo Congress Korea	韓国で開催された第10回竹の国際会議にて、宮津・竹の学校の活動を通じて展開した、竹製の手ぼうきの解説、手ぼうきワークショップの報告、手ぼうきの作り方に関するポスター展示を行った。ポスターデータや英文での執筆など全てを曾和が担当。代表発表者SOWA

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
Design				Haruyoshi,共同発表者 HIRAI Yukiteru,KAWASAKI Yasuhiro, TABATA Satoru, FUJII Miyuki
3. 京都盆地周縁の寺社における野生動物の出現状況ポスター発表	共	2014年11月1日	第20回「野生生物と社会」学会	京都市内の周辺林における野生生物の出現状況調査。特に林縁に位置する庭園における野生生物の出現に着目。曾和は実地調査と調査対象地への交渉、ポスター内容の指導などを担当。代表発表者：飯田 義彦、共同発表者：岸田 洋弥、東口 涼、吉岡 憲成、曾和 治好、柴田 昌三。
4. アートを通じて育むコミュニティランドスケープ -真如町地蔵盆と地域清掃活動をつなぐ取組み-	共	2012年10月28日	日本造園学会関西支部	京都市左京区真如町みどり倶楽部と協働し、地域の清掃活動に取り組んだ。さらに運営の担い手が不足しがちな地蔵盆において、清掃ゴミの枝を利用した灯笼づくりなどのアート創作活動を通じて、地域の高齢者・親子のコミュニケーションの機会を育てることを目指した。本活動について、造園学会関西支部大会にてポスター展示を行った。曾和は地域との調整を含め、全般的な指導を担当。代表発表者：藤津紫、共同発表者：曾和治好・角谷由美子・中川郷子・三輪斉子
5. Study on the Soundscape of Three Japanese Gardens	単	2012年7月14日	IASU(The International Association of Silk Road Universities)	武庫川女子大学建築学科において開催された”2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Road”において、庭園のサウンドスケープ調査に関する口頭発表を行った。
6. 庭園のサウンドスケープ調査に関する基礎的考察	共	2012年5月19日	2012年度日本サウンドスケープ協会春季研究発表会	庭園のサウンドスケープ調査にあたっての基礎的考察に関する口頭発表を行った。曾和は内容全般の構築、口頭発表・質疑応答を担当。代表発表者：曾和治好、共同発表者：土田義郎・栗山伴芳
7. Soundscape design in Japanese Garden. Katsura imperial garden and Tairyu sanso villa.	単	2011年9月7日	Collaborative Workshop Chana and Japan: Comparison of Soundscape between Gardens of Kyoto and China.	華南理工大学・青山学院大学・京大などと実施した国際ワークショップにての研究発表。桂離宮庭園と対龍山荘庭園のサウンドスケープに関する口頭発表を行い、さらに中国と日本の庭園サウンドスケープに関する公開討論にもパネラーとして参加した。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
1. garden nao ver. secret in ANIMA MUNDIExhibition, omaggio a James Hillman	単	2017年6月30日～7月30日	ANIMA MUNDIExhibition, omaggio a James Hillman all' Orto Botanico di Napoli	フェデリコ2世・ナポリ大学附属ナポリ植物園にて開催された展覧会。イタリア人アーティストらが中心となり、自然をテーマとしたグループ展に招聘され、デスクトップガーデンを出品した。
2. 宮津・竹のインスタレーション'Sentire TAKE'	共	2016年11月20日	宮津市	宮津市の放置竹林の竹を使ったパブリックアートを、イタリア人アーティスト・日本人の庭師がコラボレーションし、宮津市の中心市街地で公開制作に取り組んだ。曾和は全体コーディネートを担当。制作代表：バルバラ・クリメツラ、マルタ・フマガツリ、リツカルド・ピローヴァノ、共同制作：曾和治好・田畑了・他
3. DESKTOP GARDENS in MILANO 2015	共	2015年4月14日～19日	Fioraio Bollettini (milano)	2015ミラノサローネ期間中に、ミラノ市内のフラワーショップ Fioraio Bollettiniを会場にデスクトップガーデン展を開催した。展覧会主催：Hal SOWA Ph.D.、キュレーション：Giulio Caregali、共同出品者：Grazia Cicchine、玉井 恵里子、Kazumi Kurihara、田畑了、飯田 章乃、Marta Fumagalli、Barbara Crimella
4. garden-nano ver. pari in Pre パリ・デザインウィーク in Kyoto	共	2014年11月22日～24日	一般社団法人 関西インテリアプランナー協会	2013年度にパリで実施された「JAPAN STYLE & DESIGN NOW (日本デザインの今)」展の帰国報告展。デスクトップガーデン作品を出品。会場：京都伝統工芸館。代表：草木義博、共同出品者：曾和治好、安藤真吾・他
5. 宮津・竹の学校、デザイン手ぼうき at 2014京都デザイン賞入賞作品展	共	2014年11月9日～9日	公益社団法人 京都デザイン協会	2014京都デザイン賞に宮津・竹の学校の創作手ぼうきを応募。京都新聞賞を受賞。入賞者展に展示された。代表制作者：曾和治好(プロジェクト・リーダー)・竹の染色：高木光司、補助：平井幸輝 会場：京都府庁旧本館
6. Desktop Gardens in	共	2014年9月	BIWAKOビエンナー	2014 BIWAKOビエンナーレ「泡沫(うたかた)」において、小田邸の古建

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
小田邸(BIWAKOビエンナーレ)		13日～11月9日	レ(NPO法人 エナジー・フィールド)	造物を展覧会場として、デスクトップガーデン展示や庭園インスタレーションを制作した。曾和は、企画・会場清掃・作品配置・キュレーションなど全般を担当。作品も出品。代表：曾和治好 出品者：曾和治好・河原司・玉井恵里子・他
7. ミラノサローネ出展作家によるインテリアデザイングッズの競演	共	2014年6月6日～7月28日	MMMアートスペース 銀座	2013年度にパリで実施された「JAPAN STYLE & DESIGN NOW (日本デザインの今)」展より選抜された作品が展示された。曾和はデスクトップガーデン作品を展示。展覧会企画：大日本印刷㈱ 出品者：曾和治好・安藤真吾・他
8. garden-nano ver. paris at 2014 milano fuori salone "Shapes of Japanese Style-Exhibition Garden & Light "	単	2014年4月8日～12日	arte giappone (milano)	2014 milano fuori salone 日本のかたち展実行委員会によるグループ展に招聘。Milano プレラ地区のarte giapponeにて開催。デスクトップガーデン作品を展示。展覧会企画：草木義博、出品者：曾和治好、安藤真吾・他
9. garden-nano ver. secret at 2014 milano fuori salone "Secret Gardens Exhibition " at Fabbrica del Vapore.	単	2014年4月8日～12日	Fabbrica del vapore (milano)	曾和が提唱するデスクトップガーデンの国際展覧会。Nila Shabnam Bonetti、Barbara Crimellaのキュレーションによる。Milano 公共施設のFabbrica Del Vaporeにて開催。サウンドスケープをテーマとした屋外インスタレーションを現地制作し、さらにガーデン・ナノver.secretを屋内会場に展示発表した。
10. garden nano ver. paris at SALON de IPEC 2013 in Kyoto 日本のデザインの今	単	2013年12月3日～11日	一般社団法人 日本インテリアプランナー協会	「JAPAN STYLE & DESIGN NOW」をテーマに開催されたパリ・デザインウィーク2013の帰国展。公益財団法人 有斐斎弘道館にて開催。ガーデン・ナノ、パリ・バージョンを展示。展覧会企画：草木義博、出品者：曾和治好、安藤真吾・他
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 橋立風鈴開発・普及プロジェクト	共	2016年	宮津市	宮津市の放置竹林の竹を利用し、橋立をテーマとした竹の風鈴を創作するプロジェクト。宮津市・まちづくり補助金。助成額30万円。代表：土田義郎、共同研究者 曾和治好他
2. 竹の教科書出版にともなう地球デザインスクールの取り組み発信事業	共	2016年	京都府	宮津市の放置竹林の竹の活用をテーマに転嫁している活動を竹の教科書として出版・発表。京都府文化力チャレンジ補助事業補助金。助成額20万円。代表・全体統括：曾和治好、共同研究者柴田昌三・他
3. 日伊協働による放置林再生・景観創造を目指したインスタレーション創作事業	共	2016年	京都府	宮津市の放置竹林の竹を利用したパブリックスペースでのインスタレーション制作。京都府文化力チャレンジ補助事業補助金。助成額20万円。コーディネーターなど全般を曾和が担当。曾和治好・田畑了・小笠原豊・他
4. 宮津・竹の学校事業（宮津市まちづくり補助金）	共	2015年	宮津市	同上・宮津市まちづくり補助金50万円。（総事業費300万円）曾和が副実行委員長として全体統括・調整など大部分を担当。共同研究者柴田昌三・他
5. 宮津・竹の学校事業（京都府・地域力再生プロジェクト活動支援金）	共	2015年	京都府	宮津市長の要請により、NPO法人地球デザインスクールおよび宮津市が協力し、宮津・竹の学校事業を継続実施した。標記事業実行委員会副委員長に任命され、各事業に取り組んだ。プレラ美術大学に加え、京大の参加も本格化し、研究業務が拡大した。京都府・地域力再生プロジェクト活動支援助成金200万円。（総事業費300万）曾和が副実行委員長として全体統括・調整など大部分を担当。共同研究者柴田昌三・他
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			
1. 2018年9月21日	京都新聞・随想やましろ「最終話・庭師はジャズ・ミュージシャン！」			
2. 2018年6月29日	京都新聞・随想やましろ「第六話・竹林再生から景観づくりへの展開」			
3. 2018年4月30日	京都新聞・随想やましろ「第五話・庭は完成することのない芸術作品」			
4. 2017年12月15日	京都新聞・随想やましろ「第四話・知足とコンポジション」			
5. 2017年9月29日	京都新聞・随想やましろ「第三話・庭そうじは芸術」			

学会及び社会における活動等

年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
6. 2017年7月14日	京都新聞・随想やましろ「第二話・デスクトップ・ガーデン」
7. 2017年4月28日	京都新聞・随想やましろ「第一話・庭師の息子に生まれて」